



第5回キワニスドール・シンポジウムの開催について 2013.6.15

平成21年に始まり、東京キワニスクラブの年中行事となりましたキワニスドール・シンポジウムは、本年第5回を迎え、東京駅近くのパナソニックグループ本部8階ホールで6月15日(土)午後1時30分から開催されました。今回は、埼玉キワニスクラブとの共催で両クラブの会員を始め、医療関係者及び学校・一般ボランティアグループ・企業等のキワニスドール製作関係者など150名の方々が参加されました。

埼玉キワニスクラブ遠藤浩子会員の司会で、東京キワニスクラブ緒方謙二郎会長の挨拶により開会いたしました。

第一部のパネルディスカッションは、東京キワニスクラブの星利樹会員の司会で、4名のパネラーに参加していただきました。東京ベイ・浦安市川医療センターの小児病棟坂井希実看護師から医療現場でのキワニスドールを利用する経験を踏まえたお話をいただきました。東京都立板橋看護専門学校の高橋紀子教諭からは、キワニスドールの製作、利用双方の立場から参加いただきました。いきがい大学伊奈学園キワニスドールをつくる



会グループ小林秀子代表には、ボランティアグループでのキワニスドール製作の立場からお話いただきました。株式会社



会社ジェーシービー総合企画部・CSR室藤解和尚主査からは、企業での社会貢献プログラムとしてのキワニスドール製作について発表していただきました。それぞれの立場からの感想などが披露され興味深いお話しが伺えました。

キワニスドール製作功労団体の表彰の後、第二部として東京キワニスクラブの大東健治会員の司会で、グループディスカッションを参加者全員が10組に分かれて行いました。

各グループからの発表では、キワニスドールに関して参考になるさまざまなご意見をいただきました。またいろいろな立場での皆様が、このディスカッションにより活発な意見交換、交流が出来たようです。

埼玉キワニスクラブの丸山晃会長の閉会挨拶の後、地下1階ホールで希望者の方々によるキワニスドール締結体験を行いました。100名近くの参加をいただき盛会でした。

第5回キワニスドール・シンポジウムは、株式会社パナソニックグループの皆様による会場設営、サッポロホールディング株式会社から飲料の提供という多大なご支援をいただき成功裡に実施できました。

(高坂和夫ボランティア活動委員長)

初めてキワニスドール・シンポジウムに参加して 2013.6.15

6月15日(土)に行われた、第5回キワニスドール・シンポジウムに初めて参加させて頂きました。昨年末に入会し、キワニスドールづくりの経験もたった1回しかない私でしたので、シンポジウムがどのようなものかも参加

するまで正直全く分かりませんでした。キワニスの精神と参加者のドールづくりに対する熱意を肌で感じる事ができ、とても貴重な経験をさせて頂きました。

パネルディスカッションでは、実際どのような形でキワ

ニスドールが使われているか4つの団体から発表がありました。なかでも東京ベイ・浦安市川医療センターの発表で、実際に小児病棟のプレパレーションにおいて、単に子どもたちに手術内容について説明するツールとして使うのではなく、これから子どもたちが直面する心理的な不安を緩和し、乗り越えていくためにキワニスドールが活用されているという生の話を伺うことができ、とても印象に残りました。

グループディスカッションでは、ディスカッションリーダーをさせて頂きました。メンバーは、看護師・学生・一般ボランティアの方々等、キワニスドールをつくる側、

使う側の双方の立場の方がいらっしゃいましたが、どのように活用し普及させていくか、参加者の熱意に圧倒されてしまうほど積極的な意見交換ができました。

閉会后、場所を地下に移して希望者のみの綿詰め体験が行われましたが、席が足りないほどの参加者で、かつ終了時刻を延長するほどの盛り上がりでした。

シンポジウムを通じてキワニスドールの意義を心から感じるとともに、少しでも貢献できるよう積極的に参加していきたいと思いました。感謝しています。

(高瀬経秀会員)



第3回キワニス奉仕賞の贈呈について

2013. 6. 15

6月15日開催のキワニスドール・シンポジウムの席上、平成25年度キワニス奉仕賞の贈呈式が行われました。この賞は、キワニスの奉仕活動に協力し、参加する学生団体に対して贈られるもので、今年で第3回目になります。

本年度は、キワニスドールの製作と普及に顕著な貢献のあった東京家政学院中学校・高等学校及び都立板橋看護専門学校の2校に対して賞状および副賞が緒方会長から贈呈されました。

贈呈式には、両校から学生さんたちと指導教員の方々が、出席し、「受賞を励みに今後ともキワニスドールの製作を通して社会貢献を続けていきたい」という趣旨の挨拶があり、シンポジウム参加者から暖かい祝福を受けました。

なお、昨年までの受賞団体は下記のとおりです。

第1回 JUNKO Association

(明治学院大学ボランティア団体)

第2回 田園調布学園(中等部・高等部) 家庭部

及び都立広尾看護専門学校

(中村禎良 Kファミリー委員長)



第1回日本子ども療養支援研究会における キワニスドール取り組みの紹介

2013. 6. 29 ~ 30

この研究会は、「子ども療養支援協会」の活動を進める中で、会員の研究発表機会の提供あるいは学術的水準の向上などに取り組むため発足した組織で、具体的な課題に重点を置いて意見交流を図ることを目的として、研究会最初のシンポジウムが6月29日及び30日の2日間にわたり大阪で開催されました。

この活動を中心となって推進している田中恭子医師・CCS・HPS(東大病院、順天堂医大)からお誘いを頂き、一般演題として応募したところOKが得られたため、「キワニスドール～小児病棟で子どもたちを見守る小さな天使～」としてキワニスクラブの取り組みを紹介しました。

このセッションでは子どもたちの療養支援に係わる12の事例発表が行われましたが、流石に医療現場におけ

るケースが多く、一般からはドールを含め3例でした。うち一つはプレパレーションツールとしてのウッドクラフトの利用、

もう一つは被災した子どもたちを対象としたキャンプの実施です。

あらかじめ用意した内容は、クラブ紹介からドールの目的や効果、寄贈先、更には制作サイドの実情、課題と今後に向けてなど欲張ったものでしたが、発表時間は9分、コンピューターの操作でロスしたこともあり、催促のベルを3回も鳴らされる始末でした。

参加者は120名ほど、ドールを回覧して感触を実感し



でもらいました。また、ドールをご存じの方も居られましたし、利用対象の年齢についての質問もありました。研究会の趣旨に沿い、ドールが持つ癒しの直接効果と医療現場でのプレパレーションツールとしての効用などに重点を絞ったプレゼンになり、意を尽くし切れなかった感がありますが、子どもたちと医療に携わる方々がドールを介して心を通じ合うことを願いつつ、私たちが活動に取り組んでいる熱意は受け止めて頂けたものと思っております。また、参加者の意見交換の場が有れば尚良かったのではないかと感じました。

- (注) ① 子ども療養支援協会とは、子どもの人権が尊重された医療の提供、そのための療養支援士制度の立ち上げ、などを目的として2010年に発足し、
- ・子ども療養支援士認定コースの開設、運営・調査、研究及び啓発活動
 - ・関係団体との連携及び協同を活動の柱として医療関係者を中心に活動を進めている団体
- ② CCSは“Child Care Staff”、HPSは“Hospital Play Specialist”の略で欧米における認定資格
(松本一紀ボランティア活動委員)

東京ベイ・浦安市川医療センターを訪問して 2013. 8. 19

8月19日午後、東京ベイ・浦安市川医療センターの小児科病棟を東京キワニスクラブの会員と共に訪問しました。同医療センターは、平成21年12月にキワニスドールを初めて納入して以来、キワニスドールを医療の現場で積極的に活用しており、今年6月に開催したキワニスドール・シンポジウムでも同医療センターの関係者から現場のキワニスドールの活用状況を報告して頂き、今回の見学も同医療センターのご協力で実現しました。

小児科病棟では子どもたちの緊張感や苦痛を少しでも軽減するためにプレールームが開設され、病棟保育士が配置され、壁面には多くの魚が描かれ、さながら水中にいる様な雰囲気醸し出しており、子どもたちのリラックスする様子が見られました。

ここでは、週2日6～8人の外科手術が行われており、我々は、翌日に手術を受ける予定の子どもたちと付添いの人々に対する説明会を傍聴しました。看護師さんが手術室の模型とキワニスドールを使って、当日の手術の手順や注意事項を説明されるのを聞いていて、キワニスドールがいかにか子どもたちの緊張感を和らげているか、その役割を実感しました。

看護師さんの説明後に真っ白なキワニスドールが子どもたちに配られ、見ている子どもたちは、最初に目とまゆ毛、そして口を描いて、さらに、頭髪か服装へと描き進めています。

手術の前夜、子どもたちは、不安な一夜を自分のキワニスドールと共に過ごすことになるが、丹精こめて作られたキワニスドールが、どうか子どもたちの良き友だちになってく



れますようにと願いつつ医療センターを後にしました。

同医療センターから東京キワニスクラブ事務局には「来年度はキワニスドールを毎月50個、年間600個届けて欲しい」とのリクエストが届いており、改めて会員の皆さま方にはキワニスドール作りのご協力をお願い致します。

(大東健治ボランティア活動副委員長)

第47回キワニス社会公益賞贈呈式について 2013. 7. 19

7月19日の例会の席上、第47回キワニス社会公益賞の贈呈式が、行われました。今回は会員の推薦も含めて12団体の候補の中から、社会公益委員会で慎重に選考、審査を行い、障害児に対する放課後のデイサービスなどを行っている「NPO 法人ばお」、東日本大震災等で親を亡くした子ども達に対する支援のための募金コンサートや自閉症児のためのコンサートを度々行っている「東村山音楽愛好家協会」、人生半ばで脳血管系の病気や事故で障害を持つに至った人に、作業や活動を通じ

てリハビリや社会参加の支援をするデイサービス事業等を行っている「NPO 法人みんなのセンターおむすび」の3団体が選ばれました。

贈呈式には、それぞれの団体の代表者の方々が出席され、緒方会長から「東京キワニスクラブは来年設立50年を迎えますが、社会公益賞は、東京キワニスクラブの歴史の中でも古くから力を入れている事業です。キワニスのモットーである「世界の子どものために」をメインに広く社会奉仕活動の精神で活動しておられる団体を選

考し、表彰状と金一封を差し上げてきました。」という挨拶の後、表彰状と副賞を贈呈しました。

受賞に際して、「NPO 法人ばお」理事長の押尾洋子氏は、「子どもを障害の種類によって受け入れを分けない、障害の程度によって受け入れを拒まない、放課後の遊びの中で発達を支援することを目標にがんばってきたが、今回の受賞は働いているスタッフ皆の誇りになり、今後も子ども達の支援に力が入ると思います。」と述べられました。「東村山音楽愛好家協会」代表の倉田博継氏は、「震災で親を亡くした子どもがいることを知り、幼稚園と共催で募金コンサートの会場を借りることができました。また、自閉症やダウン症の子ども達のために夏休みの間に夢をつなぐ音楽会というコンサートで親と子を癒すことができやり甲斐を感じています。」と述べ、終わりにその音楽会でアンコールに歌ったチャップリンの映画「ライムライト」の中の「エターナリー」という曲を、手回しのオルゴールで歌って拍手を受けました。「NPO 法人みんなのセンターおむすび」理事長加藤勉氏は、「板橋で社会教育会館と共同で市民フォーラムをやり、15年間に

けて100回を数えましたが、キワニスの例会が2153回と知り驚いた次第で、そういう歴史ある団体から素晴らしい賞をいただき、感慨

深いものがあります。これまで障害を持っている人達と一緒に歩んできましたので、人生の途中で障害を持たれた方に光を当てようと、デイサービスを立ち上げました。今の医学では治療が困難な方々についても現在取り組んでいます。」と述べられました。

いずれの団体も財政難の中、苦勞しながら活動を続けていますが、今後も一層社会公益のために貢献されるようお祈りしたいと思います。

(中門弘社会公益委員長)



青少年教育賞表彰式を終えて 2013. 9. 21

平成25年9月21日、青山のドイツ文化会館OAGホールで第29回東京キワニスクラブ青少年教育賞表彰式が次の通り開催されました。

14:30 緒方会長開会挨拶

14:35 表彰式

最優勝賞 身延山高校手話コミュニケーション部

優秀賞 群馬県ガールスカウト連盟

「小さな力運動」

優秀賞 明星大学防犯ボランティア隊MCA T

15:00 受賞団体の挨拶と活動紹介

15:45 昨年授賞団体から「ゆるかも」と「ガクボラ」による活動経過報告

16:00 各団体代表によるパネルディスカッション
(モデレーター磯田副委員長)

17:00 交流会

18:30 豊田青少年教育委員会担当副会長挨拶、
藤原副会長閉会挨拶

今年度のプログラムでの新たな試みとして次の2点が挙げられます。

一つは、シンポジウムとして例年のような外部招待者によるスピーチではなく、青少年団体代表によるパネルディスカッションを行った事です。ここでは、各団体が現在抱える問題点や過去にハードルを乗り越えたノウハウ等を発表し合い、それぞれが質問・討議を通じてボランティア活動の現状について共有する事を目的としました。

もう一つは、プログラムの最後に簡単なパーティー形式での交流会を企画した事です。ここでは参加者全員が

お互いを自己紹介し合い、活動紹介や討論会で十分話せなかった部分にまで踏み込んで忌憚のない意見交換をすること、また、キワニス会員との世代を超えての交流や団体同士の活動コラボレーションの

可能性等についてまで話しあう機会を提供することを目的としました。

実際の交流会で青少年達は、他の団体との情報の共有や協働の可能性を探る場を持つこと、多岐にわたる分野での経験豊かな年配者との交流を通して異なる角度からの情報やアドバイスを獲得の機会を持つこと大変積極的な姿勢を見せてくれました。

これら初めての試みは、当会で新設されたユースフォーラムの育成発展の方向性を探る意味でも、それなりに意義のあるものだったように思われます。

私は、本イベントの企画運営担当の一人として、東京



キワニスクラブが青少年達に「何を提供できるか」ではなく、「彼らが何を望み、何をしたいと思っているか」を学び、それに対して我々が如何に呼応できるか、その方

法論と可能性を探求することが今後与えられた課題ではないと感じさせられました。

(杉田健青少年教育委員長)

第1回キワニス・ユースフォーラム交流会の開催について 2013. 7. 6

7月6日、キワニス・ユースフォーラム第1回交流会が、法曹会館で開催されました。

ユースフォーラム側から3団体10人、キワニス側からは18人、計28人が参加しました。

各団体の熱心な活動報告のあと、中華料理の立食パーティーに移り、和気藹々の雰囲気の中で、会員相互の情報交換が行われ、また、キワニスクラブ会員との親睦が深められました。今回は、夏休みや試験の日程の関係もあって、フォーラム加盟6団体のうち3団体の参加にとどまりましたが、参加者からは、「他の団体の活動状況が大いに参考になった」、「キワニスの方々の熱い思いを近くで聞くことができた」「大変楽しかった」などの感想が寄せられています。

キワニス・ユースフォーラムは、東京キワニスクラブが青少年のボランティア活動を支援する目的で、平成24年10月に創設されました。交流会を開催するほか、フォー

ラム会員の活動とキワニス活動との相互協力を目指しています。

この1年間も、ユースフォーラム会員はドールシンポジウム、社会公益賞贈呈式、青少年教育賞表彰式などへ参加し、キワニス活動への理解と協力の度合いを深めつつあります。

現在6団体が加盟しておりますが、毎年会員の拡充を行いながら、長い目で大きく育ててゆきたいと考えております。キワニスクラブ会員の積極的な協力を期待いたします。

(中村禎良Kファミリー委員長)



キワニス・ユースフォーラム交流会に参加して 2013. 7. 6



平成24年10月に創設されたキワニス・ユースフォーラムの会員との交流を図る目的で、7月6日(土)にキワニス・ユース

フォーラム交流会が開催されました。

「ガクボラ」、「ゆるかも」、「JUNKO」の3団体から約10名が、キワニスからは約15名が、参加しました。今回はユースフォーラム会員との交流を主眼としていたため、活動内容の報告時間は最小限に抑え、代わりに食事を取りながらの意見交換に多くの時間が割かれました。活動報告では緊張していた様子のユースフォーラム会員も、時間とアルコールと共に次第に打ち解けてきて、キワニス会員からどのような支援を期待しているのか等につき率直な意見が寄せられました。

例えば、ガクボラでは、ひとり親家庭の子どもを対象と

した学習会を無償で提供しており、大学生がボランティアで講師役を務めていますが、学習指導以外にニーズの高い進路相談にキワニス会員が乗ってもらえると子どもにとっては非常に有益な機会になるのではないかと、との意見が寄せられました。ひとり親家庭の場合主に父親がいない場合が多く、社会や企業がどのように成り立っていて、世の中にどういった業種、職種があるのか、希望の職種に就くためにはどのような進路をとるべきか、などにつき父親を通じて学ぶことができないばかりか、これらは学校教員やボランティア大学生講師も多くを与えることはできません。人生経験豊富なキワニス会員であればその知見と人生観を進路に悩む子どもに提供してもらえるのではないかとのことです。

この交流会をきっかけに、ユースフォーラム会員とのシナジーがいくつか具現化していくことを願います。そのためには、継続的にユースフォーラム会員との相互交流を行う中で、いくつかの具体的な共同プランを作り、キワニスの年間活動計画に組み込んでいく必要があるものと思います。

(大野敬士会員)

エリミネイト・プロジェクトの推進状況

世界奉仕プロジェクトとして国際キワニス全組織が挙げて推進しているエリミネイト・プロジェクトについて、東京クラブの取り組み状況を報告いたします。

ELIMINATE

Kiwanis eliminating maternal/neonatal tetanus



今年度の寄付額は31.4千ドルで、累計では83.3千ドルとなりモデルクラブとしての目標額(165千ドル)に対し達成率は50%(100K目標の達成率83%)となりました。

具体的な取り組みの内容は、ファミリーデーにおけるバザーの売上や寄付、福引券の売り上げ、新年互礼会などでの募金、チャリティコンサートのチケット代一部寄付などの会員・家族からの直接寄付額に加え、ゼラー章やヒクソン・フェローシップ、更には350人章、175人章に多数の拠出を頂きました。

エリミネイト・プロジェクトがスタート当初から着実に実績を重ねておりますことは一重に会員の皆様のご協力

の賜物と厚く御礼申し上げます。

平成29年6月までの息の長い取り組みであり、引き続き会員の皆様には折に触れご協力をお願いして参りますが、ご支援のほど宜しくお願いいたします。

撲滅対象40ヶ国で開始したこのプロジェクトですが、現在では12ヶ国が免疫国となり残り28カ国へと、活動の成果が確実に上がっています。

毎日160人もの赤ちゃんの命を奪っているMNT(母子破傷風)のELIMINATE(撲滅)に取り組むモデルクラブの宣言を誇りにし、確実に実現させましょう。

(松本一紀エリミネイト・プロジェクト・東京クラブ・コーディネーター)

Giving back in the wake of tragedy

悲劇後間もない恩返し

国際キワニス100Kプロファイルより

2011年に日本が地震と津波で被災した後、世界中のキワニス会員は、真っ先に支援を行いました。東京キワニスクラブと日本地区内にあるクラブの多くは、国内の被災地の復興に焦点を合わせました。

復興の努力が次第に落ち着き始め、地域の再建が始まったころ、東京キワニスクラブでは当初、エリミネイト・プロジェクトの資金調達活動を進めるべきかどうか迷ったそうです。しかし一方で、災害救助をして下さった支援国の中には、貧困で苦しんでいる国や、自然災害の爪あとと奮闘している国も含まれていたことを思い出しました。その支援に触発され、クラブ会員達は、世界中のコミュニティから受けた恩をエリミネイト・プロジェクトで返そうと決め、活動に焦点を当てることにしたのです。

世界10大キワニスクラブの一つとして、東京クラブのメンバーは、日本地区とキワニスを代表する旗艦クラブであることを光榮に思っています。現クラブ会長の緒方謙二郎氏は、「私達は高い目標を掲げて、その達成に向けてがんばろうとしただけです。」と説明します。

前クラブ会長の堀井紀子氏と、クラブ・コーディネーターの松本一紀氏がモデル・クラブの概念を持



ち込んだところ、刺激を受けたクラブは、他を先導して命を救うことにしました。松本氏は、「救える命があるのなら、助けるためにできる限りのことをしなければなりません。」と語ります。クラブが行った16万5,000米ドルのモデル・クラブの寄付約束で、91,600人以上の命を救い守ることができます。

東京キワニスクラブは、災害時に世界中から受けた親切と寛大な心を決して忘れることはありません。緒方クラブ会長は、「互いに助け合い、キワニアン同士のつながりだけでなくキワニアン以外の人々とも絆を深めることが非常に重要です。」とお話くださいました。東京クラブの220人の会員は、エリミネイト・プロジェクトを通して家族を一つに保ち、その絆を強化しています。

国際キワニス年次総会バンクーバー大会について 2013. 6. 26 ~ 29



今年の国際キワニス年次総会は、6月26日から29日まで、カナダのバンクーバーで開かれました。

来年の総会が東京・千葉で開催されることから、その準備のためにホスト・コミティーの委員を中心に現地調査をすることもあって、東京クラブからの22名をはじめ、横浜、埼玉、大分、名古屋、

神戸、仙台、鹿児島各クラブから総勢44名と近來にない多数の方が参加しました。

事前の計画に基づき、サブ・コミティーの業務内容等に関する調査が多くの会員の協力により詳細に行われました。

トム・デジュリオ国際キワニス会長の挨拶で始まった総会では、各種の報告、表彰、規約改定の審議、国際本部役員選挙等が行われました。エリミネイト・プロジェクト関係では、日本地区の北里ガバナーが最も目覚



しい成果をあげたとして最優秀ガバナーに選ばれ、表彰されました。

新しい

国際役員には、会長にグンター・ガッサー（オーストリア）、次期会長にジョン・バトン（カナダ）、副会



長にスーザン・ペトリシン（米国、初めての女性副会長であり2年後に初の女性会長誕生となる）、国際理事に、米国・太平洋カナダ地域からはP. バルソッチ、K. ディーン、P. ユーイング、ASPAC地域からはポリ・ラット（フィリピン・ルソン）、欧州地域からはM. クレンプルール（スイス）の各氏が選出されました。

閉会式では、日本地区全員が揃いのハッピーを着て壇上に上がり、来年の東京・千葉大会のプロモーションを行い、グンター・ガッサー次期会長夫妻もハッピー姿でこれに加わり、北里ガバナーの呼びかけには会場から大きな歓声があがるなど盛り上がりを見せました。

（緒方謙二郎会長）

初めて国際キワニスバンクーバー大会に参加して、来年の東京・千葉大会を思う

2013. 6. 26 ~ 29

開会式、食事会、閉会式、ワークショップ等全体を通じて、国際キワニスバンクーバー大会は、成功したといえる総会でありました。アメリカに近接した観光地での開催、多数の会員ボランティアの動員等が、スムーズな会の進行に貢献したのであると思いました。

来年の総会は、日本で7月に開催されます。東京から距離のある幕張での開催、相当数の英語要員の確保の必要性、年配者やハンディキャップのある方への配慮等を考えますと、米大陸で開催するのとは格段の相違があります。ほとんどの外国からの参加者が日本語を解さないこと、過去の接遇（特にVIPに対する接遇）が相当手厚いものであったことと比較される恐れがあること等を十分認識して万全の準備に当たらねばならないと痛感しました。

以下、感じたことを、もう少し、述べてみたいと思います。

1. ドールづくりのPR や日本クラブ会員のプログラムへの参加

日本地区、特に東京クラブの世界に誇れる活動は、キワニスドールづくりです。国際本部の広報担当のブロッコリー氏によれば、ドールづくりは、ヨーロッパ、オーストラリアでもやっているが、日本が抜きんでいる、とのこと。順天堂大学教授、看護師、高校生、教師等を動員して開会式等で、"feature" することを国際本部に提案してはどうかと思いました。

また、多くのワークショップに顔を出してみましたが、日本人のプレゼンターは皆無で、参加者も極めて限られていました。エリミネイトや社会貢献で、北里さん、横山さん、堀井さん等をプレゼンターとして推薦すべきと

思いました。そうすれば、日本人の参

加者も増えるであろうと思います。

2. なるべく多数の会員の役割分担で成功へ

(1) 国際本部員、地元のキワニアン、それ以外の要員間の役割分担、連絡調整が実際どう行われているか、外からは見えませんでした。会場整理の要員もかなり配置されていました。また、全体を通じて、台湾からの参加者を特別に扱う必要があるかを検討する必要があります。

(2) キワニス会員はアメリカ以外では増えつつありますが、アメリカでは20%も減っているようです。ワークショップも会員獲得をテーマにしたものが数多くあり、盛会でありました。日本と同じく会員獲得の知恵出しに苦労しているようでした。コミュニティへの貢献というのが大きいテーマでありました。

(3) 高校生の組織化や彼らの大会への参加やプレゼンテーション等、アメリカでは若者との融合が活動の大きい部分を占めているようです。若者の参加は、東京キワニスクラブの50周年事業の1つでもありますので、アメリカでの状況を参考にしつつ、道筋をつける必要があると思います。

3. 国際本部との連携

さる9月18日に、国際本部から2名の責任者が訪日し、わがホストコミティーと突っ込んだ意見交換を行いました。参加者が、各々50名以上なら日、台、韓と英語との同時通訳が提供される等、有益な情報交換ができました。今後とも常時連絡しあうことが肝要であることを痛感しました。

（藤原武平太副会長）



2014年東京・千葉国際年次総会の準備状況について



第99回国際年次総会が、来年、7月17日(木)から

20日(日)まで、千葉幕張で開催されることになりました。当初はマカオで開催される予定でしたが、様々な理由でキャンセルとなり、国際キワニス本部が急遽新たな候補地の探索を行い、韓国済州島と千葉幕張との一騎打ちの選考の結果、今年の2月に幕張に決定したものです。来年は、東京キワニスクラブが設立されて50周年の記念の年にも当たり、初めての試みとして国際年次総会とASPAC年次総会が合同で開催される国際大会になりました。50カ国から3500名の参加者を見込んでいます。

国際年次総会は、国際本部が計画、運営、進行等をすべて仕切ることになっており、日本地区に期待されていることは、空港案内、VIP接遇、登録、情報サービス等のロジスティック支援及び日本特有のイベント、催物等の企画提案です。本年2月、次期国際会長グンター・ガッサーより、ホスト・コミティ委員長に北里光司郎が任命されました。

これを受けて、本年3月6日付けで日本地区役員会の承認を得てホスト・コミティを発足させました。ホスト・コミティは、東京、千葉、横浜、埼玉、千代田の首都圏

のクラブの代表により、委員長、副委員長、事務総長、分科会委員長、副委員長等約25名で構成され、日本側の招致団体で



ある、ちば国際コンベンション・ビューローとも連携を取って受け入れ態勢の準備や日本独特のイベントの企画等を進めています。

これまで、ホスト・コミティは、4月から4回開催し着々と準備を整えています。この間、6月末のバンクーバー国際年次総会には大会運営状況の視察調査を兼ねて東京クラブから22名、日本地区全体で44名が参加し、閉会式には参加者全員が壇上に上がって東京・千葉2014への参加呼びかけをしました。また、現場を知ることも大事なので8月22日には、成田空港と幕張メッセの視察、10月10日には羽田空港の視察を行いました。

東京・千葉2014への取り組みの基本方針として、「(1)初めての国際年次総会/ASPAC合同の大会を皆の力で成功させよう。そのために(2) All Japan Kiwanis Clubでおもてなしをしよう。そして(3)日本の心と文化で大会を盛り上げ、思い出深い大会にしよう。」の3つを掲げました。まずは、参加することが大事です。皆さん、来年7月の国際大会に是非参加して世界各地から来訪するキワニスの仲間を暖かく迎えましょう。

(北里光司郎ホスト・コミティ委員長)

日本地区年次総会新潟大会について 2013. 9. 6

9月6日、新潟市で第37回日本地区年次総会が開催され、全国から300人を超えるキワニアンが集まりました。

た。会議では、2013-2014年度の事業計画・予算書の審議および役員・監事の選任が行われました。



事業計画では、活動の重点を、1. 東京・千葉国際年次総会の成功 2. 会員増強と楽しいキワニスの活性化 3. エリミネイト活動の一層の推進の三点に置くこと

が決定されました。

新役員には、ガバナーに小川恵三(横浜)、次期ガバナーに堀井紀壬子(東京)、事務総長/財務担当に石原正之(東京)、副ガバナーに藤原武平太(東京)ほか各デビジョン代表、さらに新設の成長戦略委員長に松見芳男(東京)の各氏が選任されたほか、東京クラブからは吉國眞一、古屋俊彦、菅野明、吉田浩二、堀井紀壬子、北里光司郎の各氏がそれぞれの委員長に選任されました。

また、来年9月5日の泉州大会の次は、平成27年9月4日に埼玉で開催されることが決定されました。

昨年10月からガバナーを務めてこられた北里光司郎

氏は9月末を以って小川新ガバナーと交代しますが、来年7月の東京・千葉国際年次総会の際に行われる理事選挙において、2014-2017年任期のASPAC地域枠の国際理事に立候補し必勝を期すべく日本地区として責任を持って推薦することが決定されました。

表彰式の後の懇親会には、泉田県知事、篠田新潟市長も出席し、古町芸妓の舞に始まり、新潟の酒と食事を堪能し、翌日は、ゴルフと3つの旅行会と、メンバー26人の新潟クラブは今井眞哉会長以下全員総出で尽力され大会は大成功のうちに終了しました。

(緒方謙二郎会長)

初めて日本地区年次総会に参加して

2013. 9. 6

さる9月6日(金)、新潟で開催された日本地区年次総会に東京キワニスクラブのメンバーになって初めて参加しました。

小生、生まれが新潟県なのに、生まれてこの方、越後の宮「弥彦神社」にお参りしたことがないので、今総会終了後のエクスカージョンの中に弥彦神社お参りコースが入っていたのを幸いに総会に出席しました。総会、表彰式、懇親会、二次会と次々に予定が進んでいく中で、新潟地区のキワニスの方々は、構成メンバーが少ない中で極めて心のこもったおもてなしをしていただき感激でした。9月7日のエクスカージョンにまで、代表の方にアテンドしていただき感謝の言葉もありません。

2020年のオリンピック・パラリンピックは、首尾よく

東京に決まりましたが、最後に決め手になった一つは、滝川クリステルさんの、

2020年には東京で日本流の「おもてなし」を世界中の人に味わってもらいたい、という言葉だったときいております。

来年7月には東京・千葉でキワニス世界大会があります。東京キワニスクラブが中心になって世界の方々をおもてなししましょう。

(渡辺正男会員)



一般社団法人東京キワニスクラブの臨時総会開催 2013. 9. 20

9月20日、東京キワニスクラブの臨時総会が法曹会館で開催されました。

議題は、平成26年9月期の一般社団法人東京キワニスクラブ事業計画並びに予算の審議でした。

定款に基づき、緒方会長が議長となり開会を宣言し、古屋事務局長から出席者数76名、議決権行使書数提出74名、合計150名で総会が有効に成立していることが報告されました。

まず、平成26年9月期事業計画書の内容について、古屋事務局長から資料に基づき説明が行なわれ、続いて同予算書について平川財務委員長から説明がありました。

これに対し、「公益目的事業支出として計上されているもの以外に公益的活動と見られる費用も計上されているがこれらは含めなくて良いのか。」との質問があり、緒方会長から当該部分については一般社団法人として登録・認可された実施事業について計上しているものであることを説明し、さらに、伊藤元会長からも緒方会長と同じ趣旨の補足説明がありました。その後、審議に入り、満場

一致で承認されました。

次いで、緒方会長から小島章伸会員が新年度から名誉会員の称号を贈ることになったことが報告されました。

なお、26年9月期は東京キワニスクラブ50周年、国際キワニス(ASPAC)総会が開催されることもあり事業計画、予算ともこれらの円滑な実行・支援を指向するものとなっています。

また、一般社団法人への移行に伴い、役員(理事・監事)の任期は定時総会(11月29日予定)までとなっています。

(古屋俊彦事務局長)



2013年6月から9月までの活動

| | | | |
|-------------|-------|---|---------------------|
| 2013年 6月 | 4 | 火曜会 | |
| | 7 | 第 2150 回例会(講師：村山昇作氏) | |
| | 8 | 田園調布学園キワニスドールをつくる会 | |
| | 11 | 火曜会 | |
| | 12 | 日本メトロニック社会貢献プログラム ドールをつくる会 | |
| | 13 | 第 54 回日本酒を楽しむ会 | |
| | 15 | 第 5 回キワニスドールシンポジウム (パナソグループ本部) | |
| | 16 | 第 22 回落語鑑賞会 | |
| | 18 | 火曜会 | |
| | 19 | 第 62 回国際懇話会(講師：宮家邦彦氏) | |
| | 20 | 宝塚観劇会(雪組公演) | |
| | 20 | ワインを楽しむ会(15回) | |
| | 21 | 第 2151 回例会(講師：武田洋子氏) | |
| | 23 | 静嘉堂文庫美術館「せいかどう動物園ー いきものをめぐるイマジネーション」 | |
| | 25 | 火曜会 | |
| | 25 | 第 68 回囲碁愛好会 | |
| | 26-29 | 第 98 回国際キワニス年次総会バンクーバー大会 | |
| | 7月 | 2 | 火曜会 |
| | | 5 | 第 2152 回例会(講師：森孝一氏) |
| 6 | | 第 1 回キワニスユースフォーラム交流会 | |
| 9 | | 火曜会 | |
| 11 | | 第 55 回日本酒を楽しむ会 | |
| 12 | | 歌舞伎座柿茸落公演第 2 弾歌舞伎観劇会 | |
| 14 | | 歌舞伎鑑賞教室 | |
| 16 | | 火曜会 | |
| 16-18 | | 祇園祭見学会 | |
| 19 | | 第 2153 回例会(第 47 回社会公益賞贈呈式) | |
| 23 | | 火曜会 | |
| 23 | | 第 69 回囲碁愛好会 | |
| 24 | | UBS 証券キワニスドールをつくる会 | |
| 30 | 火曜会 | | |

| | | |
|----|-----------------------|-----------------------------------|
| 8月 | 1 | 「横浜湾花火大会」を船上より見学する 横浜クラブ納涼家族例会 |
| | 2 | 第 2154 回例会(講師：田島高志氏) |
| | 6 | 火曜会 |
| | 7 | UBS 証券キワニスドールをつくる会 |
| | 19 | 東京ベイ・浦安市川医療センター見学会 |
| | 20 | 火曜会 |
| | 20 | JCB 社会貢献プログラムドールをつくる会 |
| | 22 | 宝塚観劇会(星組公演) |
| | 22 | JCB 社会貢献プログラムドールをつくる会 |
| | 27 | 火曜会 |
| | 27 | アクセンチュア社会貢献プログラム ドールをつくる会 |
| | 27 | 第 70 回囲碁愛好会 |
| | 28 | 目黒星美学園キワニスドールをつくる会 |
| | 30 | 第 2155 回例会(講師：小竹直隆氏) |
| 9月 | 3 | 火曜会 |
| | 6 | 第 37 回国際キワニス日本地区 年次総会新潟大会 |
| | 10 | 火曜会 |
| | 12 | 第 56 回日本酒を楽しむ会 |
| | 13 | 第 2156 回例会(講師：森田明氏) |
| | 15 | 目黒星美学園学園祭キワニスドールをつくる会 |
| | 16 | 第 38 回文楽を楽しむ会 |
| | 17 | 火曜会 |
| | 17 | エリミネイト支援チェロコンサート |
| | 20 | 第 2157 回例会(講師：吉川久子氏 / 臨時総会) |
| | 21 | 第 29 回青少年教育賞表彰式・交流会 |
| | 22 | 第 38 回文楽を楽しむ会 |
| | 24 | 火曜会 |
| | 24 | 第 71 回囲碁愛好会 |
| | 25 | アクセンチュア社会貢献プログラム ドールをつくる会 |
| 26 | 宝塚観劇会(月組公演) | |
| 26 | 第 63 回国際懇話会(講師：坪谷郁子氏) | |
| 29 | 大相撲秋場所観戦会 | |

2013年10月から2014年1月 今後の予定

| | | |
|----------------------|-----|-----------------------------|
| 2013 年 10 月 | 1 | 火曜会 |
| | 1 | 東京愛育苑金町学園でのドールをつくる会 |
| | 1 | PGF 保険社会貢献プログラム ドールをつくる会 |
| | 4 | 第 2158 回例会(講師：後藤啓二氏) |
| | 4 | PGF 保険社会貢献プログラム ドールをつくる会 |
| | 7-8 | エリミネイト支援メモリアルコンサート |
| | 8 | 火曜会 |
| | 10 | 第 57 回日本酒を楽しむ会 |
| | 12 | 荏原看護専門学校学校祭 ドールをつくる会 |
| | 12 | 板橋看護専門学校学校祭 ドールをつくる会 |
| | 14 | 秋季ゴルフ大会(箱根湖畔 GC) |
| | 15 | 火曜会 |
| | 17 | 宝塚観劇会(花組公演) |
| | 18 | 第 2159 回例会(講師：斎藤精一郎氏) |
| | 20 | 第 23 回落語鑑賞会 |
| | 22 | 火曜会 |
| | 22 | 第 72 回囲碁愛好会 |
| | 27 | 児童虐待防止オレンジリボンたすきリレー |
| | 29 | 火曜会 |

| | | |
|---------------------|------------|-----------------------------|
| 11 月 | 1 | 第 2160 回例会(講師：尾崎聖治会員) |
| | 2 | 広尾看護専門学校学校祭 ドールをつくる会 |
| | 5 | 火曜会 |
| | 12 | 火曜会 |
| | 14 | 第 58 回日本酒を楽しむ会 |
| | 15 | 第 2161 回例会(講師：鈴木健司会員) |
| | 19 | 火曜会 |
| | 21 | MSD(株)社会貢献プログラム ドールをつくる会 |
| | 25 | 東京家政学院ドールをつくる会 |
| | 26 | 火曜会 |
| | 26 | 第 73 回囲碁愛好会 |
| 12 月 | 28 | 宝塚観劇会(宙組公演) |
| | 29 | 第 2162 回例会(定時総会) |
| | 3 | 火曜会 |
| | 6 | 第 2163 回例会(講師：岩尾總一郎氏) |
| | 8 | 第 39 回文楽を楽しむ会(文楽鑑賞教室) |
| | 10 | 火曜会 |
| | 12 | 第 59 回日本酒を楽しむ会 |
| | 14 | 囲碁大会&忘年会(第 74 回) |
| | 15 | 第 39 回文楽を楽しむ会 |
| | 17 | 火曜会 |
| | 20 | 第 2164 回例会(講師：藤巻健史氏) |
| 2014 年 1 月 | 28 | 第九を聴く会(サントリーホール) |
| | 4 | 新春大歌舞伎(歌舞伎座) |
| | 10 | 第 2165 回例会(新年互礼会) |
| | 14 | 火曜会 |
| | 17 | 第 2166 回例会 |
| | 18 | 田園調布学園キワニスドールをつくる会 |
| | 21 | 火曜会 |
| 28 | 火曜会 | |
| 31 | 第 2167 回例会 | |

■平成 25 年 9 月 30 日現在 総会員数 219 名

■平成 25 年 6 月 1 日から 9 月 30 日までに入会された方 2 名 釜谷 正宏、渡邊 巧

キワニスドールとは

身長約 40cm で体重約 50g、とても素朴な形で、目も鼻も口もありません。ただ一つ身に付けているのは、キワニスマークの小さなラベルだけです。

しかし、このちょっと風変わりな、ノッペラボウの小さな人形が普通の玩具の人形とは違った方法で、全世界の病気の子どもたちに大きな力を与えています。キワニスドールは、病気の子どもたちと仲良しになり、見守ることが使命です。

白い木綿生地にポリエステル綿を詰めただけのキワニスドール。ノッペラボウなのは、使う人が顔を描いたり洋服を描いたりすることができるようにしているためです。また、お医者さんや看護師さんが、治療の説明のために、人形に絵を描くこともできます。さまざまに描かれた人形は、病気の子どもの人形になります。

キワニスドールは、メルボルンのナナワディング・キワニスクラブで、1988年に初めて作られました。メルボルンからオーストラリア全域で広がり、さらに1994年に北欧にも伝播しました。日本地区では2001年11月から取り組み始めました。現在では全世界のキワニスクラブでドールを制作して病院などに寄贈するという活動を行っております。

2009年から毎年、キワニスドールの利用実例などについての情報共有をはかり、作る側と利用する側双方の課題を議論し合う場として、キワニスドール・シンポジウムを開催しています。

キワニスドール (Kiwaniis Doll) を平成 18 年 7 月 14 日に、商標登録いたしました。

エリミネイト・プロジェクトについて

キワニスはユニセフと共同で世界から母子破傷風を撲滅する活動を展開しています！

2015年までに1億1千万ドルを募金し、6,100万人の母子の命を救う活動です。日本のキワニスクラブはこの活動に賛同し、募金活動を行っております。

母子破傷風についての基本データは

- 破傷風は、9分に1人、毎日、160人の赤ちゃんの命を奪っている。
- UNICEFでは、2000年からこれまで20か国で母子破傷風の撲滅に成功し、残る40か国での撲滅を国際キワニスとUNICEFが協力して行い、世界からの撲滅を目指すこととなった。
- 破傷風ワクチン3回を妊産婦に注射すれば赤ちゃんまで免疫が得られる。
- 1回60セント、計3回1.8米ドル(約140円)の注射で母と将来の赤ちゃんの命を守ることが出来る。

エリミネイト・プロジェクトは、6,100万人のお母さんと赤ちゃんを助けることが出来ます。

ELIMINATE

Kiwaniis eliminating maternal/neonatal tetanus



日本は破傷風撲滅の先駆者—誇りを持ってこの活動を推進しよう！

破傷風撲滅というと、日本にはあまり関係がないと思われる方もいるかと思いますが。実は、破傷風菌と戦い、世界に先駆けて、破傷風菌の純粋培養に成功し、破傷風の免疫体を発見し、血清療法を確立したのは、日本の細菌学者北里柴三郎博士でした。日本はこの分野での世界の先駆者です。今回のキワニスクラブでの母子破傷風の撲滅に対するエリミネイト・プロジェクトのスタートに当たっては、既に北里研究所と北里大学より、2011年の日本地区千葉大会での特別講演等も含め特別の支援を受けています。日本地区は誇りをもってこの活動を推進しましょう。

キワニスクラブとは

キワニスクラブは、“世界の子どもたちのために”を合言葉に奉仕活動を行う民間の世界的な団体です。1990年からは、特に幼い子どもたちのための奉仕活動に力を入れています。名称のキワニスは、デトロイト周辺に住んでいたアメリカ原住民の言葉“Num-Kee-Wan-is”(みんな一緒に集まる)に由来します。

キワニスクラブは、1915年1月21日米国デトロイト市で生まれました。当初はアメリカとカナダで発展していましたが、1963年にはヨーロッパ3都市に広がり、現在世界の約80ヶ国、8,000のクラブ、約23万人の会員が国際キワニスを構成し、その本部は米国インディアナポリスにあります。

日本では、東京キワニスクラブが1964年1月24日、アジア太平洋地域で最初のクラブとして設立されました。次いで名古屋、大阪、広島、神戸、仙台、札幌、横浜、高松、福岡、京都、千葉、和歌山、新潟、泉州、埼玉、西宮、渋谷、福山、熊本、静岡、金沢、松江、鹿児島、芦屋、福島、大分、千代田、長崎の順に生まれ、現在29のクラブで会員は約1,600名で活動しています。東京キワニスクラブは、1967年2月27日社会奉仕団体として初めて、厚生大臣より社団法人の認可を受けました。2012年10月1日に一般社団法人に移行しました。

一般社団法人 東京キワニスクラブ 会長 緒方 謙二郎 〒101-0047 千代田区内神田2-3-2 米山ビル

Tel: 03-5256-4567 Fax: 03-5256-0080 e-mail: tokyokiwaniis@japankiwanis.or.jp URL: <http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>